

褒めほめ月間

松の褒めほめ月間が
やってきました。

昨年四月に進級し、新しいお友だち
を迎えて以来、一年になろうとしてい
ます。

節々に実施してきた行事の度に、
保護者みなさまはかくいただいた温
い応援と賞賛を浴びながら、子
どもたちは心もからだも確実に、成
長という階段を登ってきました
た。

三月は一年の総まとめとして、ほめ
ることを続けた、と思っております。

国語辞典では「ほめる」というのは
他人が真似できない立派なことをし
たときに与える言葉と解説してい
ます。

もし、これを基準にしたなら、成長発
達の最中にある、総まとめ学習中の
子どもたちの喜動をほめることができ
るのでしょうか。

私は子どもを「ほめる」というのは
「受け入れる」受けとめる、「
認める」「励ます」「ことごとく喜
ぶ」「驚く」「感動する」「ことごと
くほめる」と思っております。

受け入れ、認め、励みになる言葉
をかけ、喜んでいる、驚いている、
感動していることを言葉や態度
で与えることが大事なりだと思っ
ています。

その時、忘れはげないのが笑顔
です。

例えば、「そうとうなづく言葉が発
する時に、目も合わず無表情なま
まの」「そうとうでは否定されたと思っ
た」「子どもです、女大顔を向けま
す」「そう」と言っておければ子どもは
受け入れももらえな、認めてもらっ
た、喜んでもらうたという突然感が
湧いてくるのです。

そうすると満足感が生まれ、これを
たくさん味わえばじめて自信がこ
えます。それが意欲につながるの
なのです。

一年締めくくりに三月、「褒めほめ
月間」を実践してみようではあり
ませぬか。

「さうとうとほめる」
つまり、一回ほめたら終り、できま
り前、にしまわないう自信がこ
えるまで何度も何度もほめる姿
勢が大事だということです。

「満足感↓自信↓意欲」という
心の育ちの法則性に添って、ほめ
てほめて満足感をたくさん味わわ
せ、自信から意欲と勇気をわか
立させてあげたい。

子どもの生きる力のために、心に込め
ほめ言葉を女大顔と共に送り続
けたい。

そして保護者みなさま、仕事と子育
に一年というキマリを積み、
子育てに、感動してきたご自身を
褒めていただきたい。

ほめほめの三月を迎えます。

園長 橋田孝子